

自己点検・評価報告書

2023（令和5）年度

第2期中期目標・中期計画 ビジョン2020報告書
中期計画期間：2020年度～2026年度



九州ルーテル学院大学

「ビジョン2020」に基づく2023年度活動実績に関する総評

自己点検・総合評価委員会委員長 香崎智郁代

本学は、2020年度から2029年度までの10年間における第2期中期目標・中期計画「九州ルーテル学院大学ビジョン2020～Luther Vision2020～地域に夢がある、世界に学びがある、夢と学びをつなぐ大学を目指して～」(以下「ビジョン2020」という。)を策定し、2020年度からその「アクションプラン」を実行するとともに、自律的PDCAの好循環化を目指して、各ビジョン(I:人間形成、II:教育、III:学生の受入れ、IV:学生支援、V:研究、VI:国際感覚、VII:地域貢献、VIII:経営基盤)の到達目標と具体的方策及びその達成状況をロードマップ(2020～2029年度の工程表)に沿って自己点検・評価することとしている。

2023年度は、昨年度受審した7年に一度の大学基準協会による大学評価(認証評価)において指摘された改善課題への対応とともに、再編した学科・専攻等において様々な新たな取組を開始した一年であった。自己点検・評価活動においては、改善課題について内部質保証推進会議の座長である学長、学長補佐(点検・評価担当)及び事務部長を中心とした担当部署へのヒアリングを通して、改めて現状を把握し改善・向上に向けたプロセスの検討を行った。また、大学評価(認証評価)への準備のため昨年度は実施できなかった期中評価を再開し、年度計画の進捗と達成に向けた取組の推進を図った。2024年度はビジョン2020の中間評価の年度にあたり、計画達成の進捗状況を現在大学が置かれた状況も含めて、全学的な視点から点検・評価していく必要がある。本委員会では中間評価における点検・評価のあり方を具体的に検討し、ビジョン2020の達成に向けて本学の更なる発展に尽力していきたい。

以下に、各項目における2023年度の自己点検・評価結果の概要を記述する。

まず、「ビジョンI:人間形成」では、新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ禍」という。)による制限がなくなり、キリスト教主義学校である本学の主軸となるチャペル礼拝をすべて対面で実施し、学生の参加を促すことができた。チャペル委員会の活動も前年度と比べ活性化し、大学のチャペル礼拝だけでなく、教会での礼拝、地域のコンサートにおいて聖歌隊、ハンドベルチームの賛美と演奏を行う等、学外での活動を積極的に行うことができた。さらに、地域住民や地域関係機関と連携したボランティア活動にルーテル学院高校の学生とも協働しながら取り組んだことは、本学の校訓である「感恩奉仕」を具現化するものであり、大いに評価したい。また人文学研究科においては、キリスト教の精神や本学の校訓である「感恩奉仕」についての講義を開始し、学部生だけでなく大学院生にも本学の理念・目的を伝える機会を設けることができた。チャペル委員会委員以外の学生や教職員に向けたチャペル礼拝参加への呼びかけ等、課題はあるものの、おおむね順調であるといえる。

「ビジョンⅡ：教育」では、大学評価（認証評価）での改善課題であった人文学研究科における教育課程の実施方針について、スピーディに検討を進め対応することができた。また、2021年度から運用してきた学修評価票と連携した Active Academy の学修ポートフォリオを活用し、全学生がアドバイザーとの面談のもと、成績評価、課題、目標等の学習成果を可視化した。これは学修者本位の教育の実現に向けた取組の一步であり、今後も着実な実施が求められる。さらに、地域での活動を通じた体験型のサービスサポートラーニング科目である「熊本地域活動学」「熊本地域活動学サービスラーニング」「熊本地域活動学サービスラーニングサポート」、また、現在社会的に求められている AI を活用する基礎的なリテラシー習得のための数理・AI・データサイエンス科目として、「データサイエンス基礎Ⅰ・Ⅱ」「情報活用と情報デザイン」「プログラミングとAI活用入門」等を新規に開講することができた。その他、学生の学習の活性化を促す効果的な取組として、ルーテル学院大学だけでなく、熊本大学との単位互換制度を開始する等、履修できる科目の選択肢を増やし、様々な側面から学生の希望する学問を深めることが可能になったことは、学生にとって好ましい変化だといえる。2024年度からは新設された副専攻の学びも開始されることから、学生の多様な学びを支援する丁寧な対応が求められる。

教員の資質・能力向上及び教員組織の改善・向上を目指したファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の充実については、合計4回の研修会を実施することができた。教員の授業内容の改善について、非常勤講師を含め全学的に授業評価アンケートを実施することとし、さらに人文学科会議においては年間を通して授業改善に向けた検討を行う等、教員の意識改革を図った。一方で、授業評価アンケートが授業改善につながっていないという指摘も見られることから、次年度は具体的な方策を検討していく必要がある。また、成績評価ガイドラインについては、導入当初から意見の相違があり、さらに一部の学科専攻で成績評価ガイドラインの認識に不一致があることが明らかになった。成績評価のあり方については、信頼性確保の観点からも慎重に議論をすべき事項であるため、次年度に議論を尽くす必要がある。

「ビジョンⅢ：学生の受入れ」では、総合型選抜を開始し一部の専攻を除き、多数の出願があったことから順調な滑り出しであったといえる。その他の入学者選抜制度においても堅調に推移した。また、高大連携の強化については、Campus Visit & Try（CVT）を継続して実施し、多くの高校生の参加を得ることができた。一方で、学科・専攻によって志願者数が減少している状況もあり、本学の魅力並びにそれぞれの学科・専攻の魅力を周知する方法を引き続き検討していく必要がある。

「ビジョンⅣ：学生支援」は、本学が特に重点的に力を入れて取り組んでいる計画である。まず修学支援として障がいのある学生が充実した学生生活を送れるよう、他大学の障がい学生支援部署との連携会議である「Sun-Kuma 会議」は参加大学数が増加し、各大学

のサポート体制や支援方法等、更なる技術向上や情報共有の場となっていることが窺える。また、学生サポーターである「サポーターSHIP-S」では学生が主体的に学内のバリアフリーマップや肢体不自由学生の「個別避難計画書」の作成にも取り組むことができた。さらに、Student Voice 委員会の活動が定着し、学生の意見を大学運営に取り入れる仕組みも整ってきたといえる。進路・就職の面では、就職・進学決定率が今年度も順調に推移しているところである。学生のニーズに合わせた企業訪問や就職先の開拓、学生一人ひとりに寄り添い、電話やメールを活用したきめ細やかな就職支援の実施等、本学の特色である少人数教育のメリットを生かした取組が好調の要因であろう。さらに、教員・公立保育職希望者に対する採用試験対策、精神保健福祉士希望者に対する国家試験対策等が担当教員を中心として熱心に行われていることも合格率につながっていることが推察できる。しかしながら、継続課題となっている「教職卒業生の組織づくり」については検討が不十分であると言わざるをえない。どのようなプロセスで検討していくのか具体的な計画策定を期待する。

「ビジョンV：研究」では、本学の研究力を高めていくための第一段階として、教員の研究活動等に関するアンケートを実施し、現状を把握できたことは今年度の大きな成果である。今後は結果を踏まえ、研究を推進する環境整備策を策定し、併せて科学研究費助成事業等への競争的資金への応募及び採択数の増加を図る検討を行っていく予定であることから、着実な取組を期待したい。研究ブランディング推進事業における3つのプロジェクト（A：子育て支援事業、B：障がいのある児童・生徒への科学教育事業、C：学校で苦戦する子どもたち、その保護者、教師に対して適切な対応を行うための教育支援事業）は、担当教員に属した事業であり、教員の退職等に伴う環境の変化による事業変更が必要となるため、次年度以降に新たな計画立案を期待したい。また、こころとそだちの臨床研究所と保育ソーシャルワーク研究所との学際的な教育・研究の実施については、残念ながら進展が見られなかったため、今後具体的な取組計画を要する。

「ビジョンVI：国際感覚」では、コロナ禍の影響がなくなったことから、新たな留学先との連携や国際交流インターンシップ等、多数の選択肢を学生に提供する等、積極的な展開が見られた。一方で、計画の進捗が難しいものも数多く見受けられた。例えば、幼稚園や中高と連携した保護者向け異文化理解の講座や英語学習等の異文化体験学修の実施、さらに外国人留学生の受け入れに係るシステムの再構築等、進捗が見られなかった計画があったことは否めない。まずは計画を進めるにあたっての現状と課題を担当部署間で協議する機会を設け認識を共有し、議論を進めていく必要がある。

「ビジョンVII：地域貢献」では、教員の地方自治体等への委員・講師としての派遣や学生のKLCサポーター活動を通して、様々に地域貢献を行うことができた。また、地域貢献及び卒業生の学び直しの機会として、ルーテルリカレント講座の開催や「キリスト教

II」を市民への公開授業を実施することもできた。公開授業においては、募集から代金収受に係るシステムを導入し業務の効率化を進めてきたが、受講者数が少ない状況がある。情報発信の方法を検討するとともに、地域のニーズ分析を踏まえた講座の開設、開放授業の定着と拡充が求められる。

「ビジョンⅧ：経営基盤」では、まず同窓生代表を構成員に加えた「九州ルーテル学院大学モニター会議」の設置に着手し、規程を整備することができた。また、同窓会である結会と連携しホームカミングデーを開催する等、これまで継続課題となっている後援会組織の立ち上げの端緒となる取組ができたことは評価したい。今後は同会議を大いに活用しながらホームカミングデーイベントを定例化し、同窓生とのネットワーク充実を図っていくことを期待したい。自己点検・評価活動においては期中評価を再開し、年度計画の達成に向けた取組を進めることができた。教職課程における自己点検・評価活動も2年目を迎え、昨年度の点検事項を踏まえ、各免許種別に点検を行うことができた。教員養成教育の質保証の観点から、見いだされた課題については対応を求めたい。施設整備については、施設整備計画に基づき、整備を進めることができた。具体的にはネットワーク環境や情報通信技術（ICT）等機器の整備、学内トイレの改修、エレベーターの安全設備の設置等により、学修及び学生生活の向上に資する環境整備を行うことができた。今後も限られた財源のなかで優先順位を検討しながら進めていく必要がある。一方で、大学評価（認証評価）の改善課題である財政基盤の脆弱性については、残念ながら進捗が乏しいと判断せざるを得ない。恒常的な寄付金獲得、適正な人員配置、業務運営の見直し、人件費を含めた経費抑制等、課題は山積している。経営基盤をより一層安定化するための方策の検討が必要である。さらに、地震等を想定した避難訓練は大学単一では実施しているものの、こども園、インターナショナル小学部、中・高校が同一キャンパスに設置されていることから、安全体制の整備として、合同で開催していく取組も検討が望まれる。

以上が、「ルーテルビジョン2020」に基づく2023年度の活動に対する総評である。具体的な点検・評価活動については、次ページ以降の「第2期中期目標・中期計画（ルーテルビジョン2020）の二次評価及び、改善措置・指示事項」をご覧ください。

【2022 年度大学評価結果における改善課題】

- 1) 人文学研究科における教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方の明示(対応済)
- 2) 財務に関して教育研究活動を安定して遂行するために必要な財政基盤の確立
 - ・2023年6月に関係部署にヒアリングを実施し、学生募集、科研費、寄付金の獲得を図ることが必要であることを確認した。また法人で財政基盤の確立に向けた取組計画を作成し、それに基づいて実行することを確認した。

【2023 年度自己点検・総合評価委員会による二次評価結果】

○ビジョンⅠ(人間形成)(7計画)

「感恩奉仕の精神に基づいて社会や人を先導する人間の育成」

- ・自校教育、ボランティアの実施、チャペル委員の活動等、順調に進捗した。特に、「るうてるかよう会」や「黒髪校区町民体育祭」等、地域住民や地域関係機関等と協働した取組が継続して実施できた。
- ・共通教育科目および人文学科の専門教育科目で用いられるシラバスに、SDGs 情報を明記できるような書式に見直し、2024年度から運用を始める。

○ビジョンⅡ(教育)

「感恩奉仕の精神を受け継ぎ、グローバルズムをもって行動できる人材の育成」(22計画)

- ・各学科、専攻での取組については概ね進捗が見られた。
- ・成績評価に関する課題については継続検討の予定である。

Ⅱ-3-2(1)①英語のルーテルブランドの確立(評点Ⅱ)

- ・2022年度から課題としてあがっているICTを用いた英語コミュニケーション学習について検討が必要である。

○ビジョンⅢ(学生の受入れ)「感恩奉仕の理念に共鳴し、“think globally,act locally”を志す学生を応援」(6計画)

- ・大学院における公認心理士養成カリキュラムの全体像が整った。
- ・総合型選抜を実施し、多数の出願があった。

Ⅲ-1-①高大接続改革実行プランにおける大学入学共通テストへの対応(評点Ⅰ)

- ・大学共通テストと一般試験との併用について11月に再検討が行われた結果、導入しないことになった。改善措置・指示事項としては無し。

Ⅲ-2-①戦略的な学生募集の展開(評点Ⅱ)

- ・入試に関する分析を行っていることは評価できるが、仮評価後の取組について記載がない。次年度はより多様な方面でPR活動や、学生目線でのSNSの活用について積極的な取組を期待する。

Ⅲ-2-②高大連携の強化(評点Ⅱ)

- ・高大連携の強化のために働き掛けしているが、ルーテル学院高校及び九州学院高校からの推薦枠が埋まっていない現状がある。本学の学びについてより多くの高校生及び教員に知ってもらうための検討が必要である。

○ビジョンⅣ（学生支援）「退学率 0%、学修・生活満足度 100%、就職・進学率 100%、学生の迷いとやる気に寄り添う支援」（6 計画）

・企業開拓や英語を活かした職業選択の提案（英語力のある学生に英語を活かせる職を紹介等）を行った結果、学生の就職内定につながった。

・Student Voice 委員会の活動が定着し、学生の意見を聞き取る取組が継続できた。

Ⅳ-1-①キャリア教育の充実（評点Ⅱ）

・継続課題である「教職卒業生の組織づくり」については具体的な取組が必要である。

Ⅳ-3-①退学率ゼロプロジェクトの推進（評点Ⅱ）

・「ひだまり café」が「退学率ゼロプロジェクトの推進」に貢献できていると思われるものの、授業への参加には必ずしもつながっていない現状があるため検討が必要である。

・学生支援に関わる場所の確保が保証されていない状況については検討が必要である。

Ⅳ-3-②ラーニングコモンズの充実（評点Ⅱ）

・ラーニングコモンズの存在意義や利用方法について、見えてきた課題にどのように対応していくのか、担当部署を明確化したうえで、具体的な検討が必要である。

○ビジョンⅤ（研究）「各研究組織の研究力を強化し、多様な視点から地域社会にアプローチする特色ある研究を推進」（7 計画）

・研究活動時間等に関するアンケートを実施し、現状把握をすることができた。

Ⅴ-1-①研究事業の推進、新たな研究拠点の構築・展開（評点Ⅱ）

・研究ブランディング推進事業で実施してきた3つのプロジェクトの詳細は管理台帳からは不明瞭であり、担当者に属した事業もあることから今後の計画立案が必要である。

Ⅴ-1-②現場と連携した異職種協働研究の強化（評点Ⅱ）

・英語教育・保育・福祉等の分野での現場と連携した具体的検討が必要である。

Ⅴ-2-③研究施設の充実・展開（評定Ⅱ）

・「こころとそだちの臨床研究所」と「保育ソーシャルワーク研究所」の学際的な教育の計画実施という本年度の計画については検討が進んでいない。どのような部分で共同が可能なのか検討が必要である。

○ビジョンⅥ（国際感覚）「本学の特色を生かして異文化を理解し、グローバルな視野で“くまもと”に貢献できる人材の育成」（5 計画）

・異文化体験学習について新たな留学先と連携したり、国際交流インターンシップを利用したり、新たなプログラムを学生に提供したりと積極的な展開が見られた。

Ⅵ-1-②グローバルセンターの整備・充実（評定Ⅰ）

・幼稚園や中高との連携、保護者向けの異文化理解講座、英語学習や合同での異文化体験学修等の実施についてなど、これまでの総括が必要である。（昨年度継続課題）また、付属園園児との連携や専任教員の英語講座等、各種実施されている現状は見られることから、グローバルセンターへの情報集約の方法について検討が必要である。

VI-3-①外国人留学生の受け入れ促進（評定Ⅰ）

- ・「外国人留学生の受け入れ促進：外国人留学生の受入れのためのシステム（入試制度、交換留学制度等）を再構築する。」という計画について、殆どアクションが起こされていない。まずは、本計画を進めるにあたっての現状と課題を担当部署間で協議する機会を設け、次年度の中間評価において、評価可能な到達目標の設定及び、それを達成するための具体的方策の記載がなされるよう見直しが必要である。

VI-3-②英語表記の充実（評定Ⅰ）

- ・広報委員会との連携により、ホームページの英語表記が進捗した。その他の英語表記については、他部署と情報共有しながら、本学の学生募集やカリキュラムの展開についてグローバルな戦略をどのように描くかも含めて、検討が必要である。

○ビジョンⅦ（地域貢献）「“利他共生の精神”の地域への発信」（5計画）

- ・地方自治体等への委員・講師等の派遣数が増加し、積極的な取組が見られた。
- ・地域交流スペースを活用した「るうてるかよう会」の展開、外部団体との連携による里親支援やひとり親家庭の学生による学習支援等の開始ができた。

Ⅶ-1-②産学官連携事業の実施（評定Ⅱ）

- ・連携協定等を締結している和水町と具体的に協議がなされ次年度の活動再開を目指しているため、今後の進捗を期待する。

Ⅶ-1-③公開講座や講習会等を通じた社会人の学びの場の創出（評定Ⅱ）

- ・公開講座・公開授業の質や広報活動方法の検討が必要である。

○ビジョンⅧ（経営基盤・大学運営）

- ・同窓会と連携したホームカミングデーを実施することができた。
- ・同窓生代表を構成員として加えた「九州ルーテル学院大学モニター会議」を設置した。
- ・ネットワーク環境、ICT機器の整備、学修図書館としての整備・充実に努めた。
- ・黒髪乳児保育園の5歳児までの定員見直しを行った。

Ⅷ-1-2-③組織のあるべき姿を見据えた採用・人材育成・職員の配置（評定Ⅱ）

- ・ポストコロナで停滞していた海外交流がコロナ前の状況に戻り、来年度はインターナショナル小学部開校も控えていることから、事務職員の語学力（特に英語）の向上に向けた取組を期待する。
- ・組織における事務職員の役割等を理解させるための研修会の実施、人事評価制度の導入に向けて、評価者のスキルアップ研修会等の実施が必要である。

Ⅷ-1-4-①自己点検・評価活動の実質化（評定Ⅱ）

- ・認証評価での指摘事項のうち未対応の1件（財政基盤に関する課題）について、改善に向けた具体的な計画策定を喫緊の課題として取り組む必要がある。

Ⅷ-1-5-①学院創立百周年（2026年度）に向けて、大学の魅力を発信する「周年事業」の実施（評定Ⅱ）

- ・ホームカミングイベントの定例化、及び職域同窓会の設立に向けた検討が必要である。

VIII-1-5-②卒業生や旧教職員とのネットワークの充実（評定Ⅱ）

- ・ 今後は同窓生の代表を構成員として加えた「九州ルーテル学院大学モニター会議」を有効に活用し、同窓生とのネットワークの充実を図っていくことを期待したい。

○ビジョンⅧ（経営基盤・財務）

- ・ 100周年事業募金委員会の立上げ等について進捗が見られる。

VIII-3-1-①学院の中期財政計画の適切な運用（評定Ⅱ）

- ・ 学院財務委員会も今年度は数回しか開催されていない現状があるため、改善に向けた具体的な計画策定を喫緊の課題として取り組む必要がある。

VIII-3-1-②中長期視点からの特定資産の着実な積立（評定Ⅱ）

- ・ 学院財務委員会等での情報共有と議論の深化が不十分であり、検討が必要である。

VIII-3-2-①寄付金その他の自己収入の増加策の検討（評定Ⅱ）

- ・ 恒常的な寄付金獲得の方策について検討が必要である。

VIII-3-2-②後援会の組織化・活性化（評定Ⅱ）

- ・ 後援会組織の立ち上げのための具体的な検討が必要である。

VIII-3-3-①業務運営の改善と経費節減（評定Ⅰ）

- ・ 適正な人員の配置、業務運営の見直しのための具体の計画が提示されないことから、人件費を含めた経費抑制という計画に着手が必要である。

VIII-6-1-①リスク管理・労務管理体制の万全な整備・周知（評定Ⅱ）

- ・ 学院全体の危機管理を総括するリスクマネジメント委員会が今年度は開催が必要である。また、BCPの策定についてのその後の進捗状況の確認が必要である。さらに、災害対策のための備蓄品の状況確認も記載いただきたい。

VIII-6-2-①安全管理体制の整備（評定Ⅱ）

- ・ 地震等を想定した同一キャンパス内の全ての機関（インター小、こども園、中高、大学）が合同で行う避難訓練の実施を検討が必要である。

資 料

1. 授業評価アンケート
2. 入試関連データ
3. 学生異動
4. 就職状況

1. 授業評価アンケート

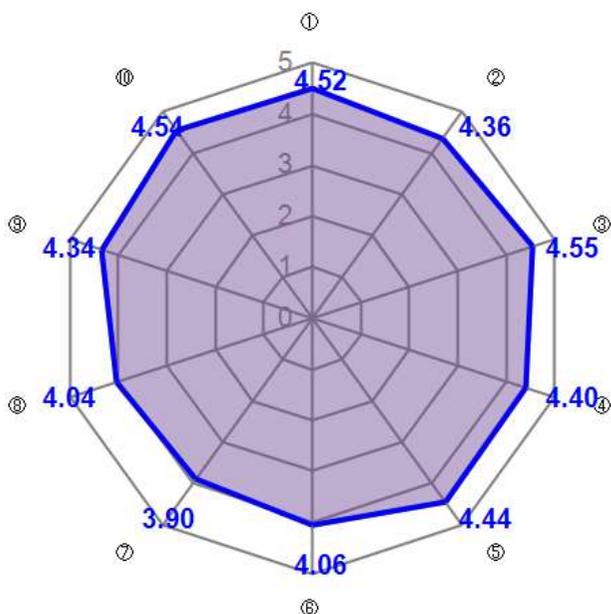
アンケート名： 2023年度 前期授業評価アンケート(1年生)

科目数 : 227件

【1】 この科目について感じたことや思ったことをお答えください。以下の項目内容はあなた自身にどれくらいあてはまりますか。

- ① ①授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた
- ② ②事前学修・事後学修について十分に説明してくれた
- ③ ③授業は「講義概要（シラバス）」に沿って実施していた
- ④ ④理解がしやすいように教え方が工夫されていた
- ⑤ ⑤小テストやレポートなどの課題が出された
- ⑥ ⑥教員から課題などの提出物にフィードバックがあった
- ⑦ ⑦グループワークやディスカッションの機会があった
- ⑧ ⑧教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった
- ⑨ ⑨事前学修・事後学修の課題は授業に役立つものだった
- ⑩ ⑩全体として、この授業はあなた自身に役立つものでしたか

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
とてもあてはまる	715	641	748	655	746	547	579	547	627	778
ある程度あてはまる	446	437	414	443	351	366	286	381	443	363
どちらでもない	51	104	57	99	71	194	130	153	119	68
あまりあてはまらない	12	40	5	21	33	75	116	93	21	9
全くあてはまらない	2	4	2	8	25	44	115	52	16	8
合計	1226	1226	1226	1226	1226	1226	1226	1226	1226	1226
平均	4.52	4.36	4.55	4.40	4.44	4.06	3.90	4.04	4.34	4.54
全体平均	4.52	4.36	4.55	4.40	4.44	4.06	3.90	4.04	4.34	4.54



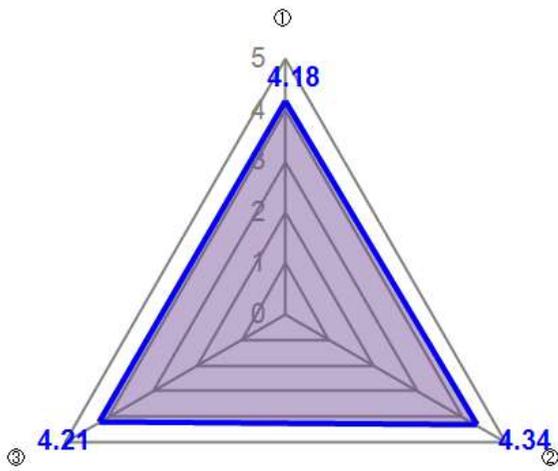
【2】ディプロマポリシーの実践について

学位授与の為には、ディプロマポリシーに記されている能力の実践到達が求められます。下記のディプロマポリシー（学位授与方針）を読み、以下の項目内容はあなた自身にどれくらいあてはまりますか。下記選択肢から1つ選んで答えてください。

また、授業が共通教育科目の場合は、以下の3つのディプロマポリシーを読み、回答してください。授業が専門科目の場合は、それぞれの学科・専攻・コースのディプロマポリシー（学位授与方針）を読み、回答してください。授業により、該当するディプロマポリシーが異なりますので、それぞれの授業のディプロマポリシーについて回答してください。

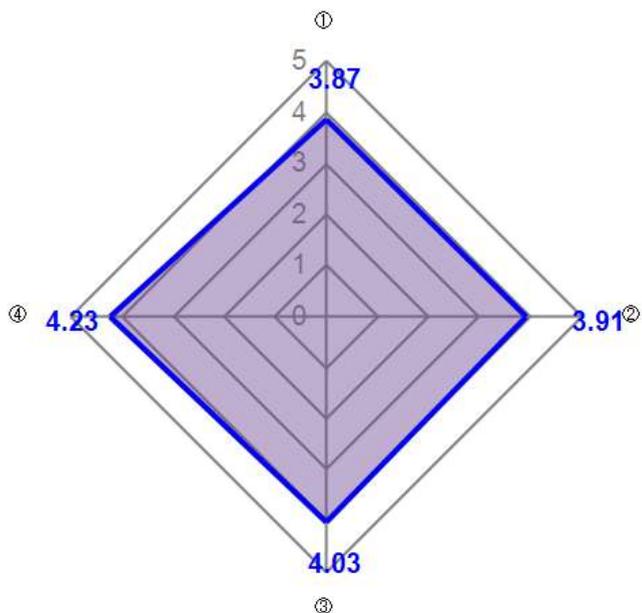
- ① （共通教育科目）
 1. グローバルな視野を持ち、多様な価値観を受け入れることができる力
 2. 社会のさまざまな分野で活動できる知識やスキルを身につける力
 3. 地域や社会の変化とニーズに対応できる力

質問選択肢／質問番号	①	②	③
とてもあてはまる	325	425	321
ある程度あてはまる	325	338	255
どちらでもない	100	77	102
あまりあてはまらない	24	18	21
全くあてはまらない	11	7	10
合計	785	865	709
平均	4.18	4.34	4.21
全体平均	4.18	4.34	4.21



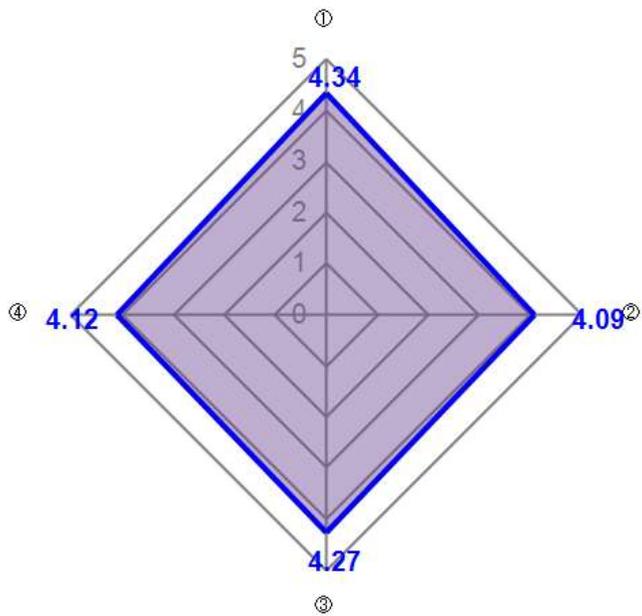
- ① (専門科目)
人文学部人文学科
1) キャリア・イングリッシュ専攻
1. 国際社会や実務で通用する英語の4技能・5領域を修得し、実践的で高度な英語コミュニケーション能力を身につける。
 2. 英語圏の社会・歴史・文化・言語・文学の各領域への理解を深め、国際的で学際的な視野を持つことができる。
 3. 社会の課題を自己に関わる問題として捉え、自国の文化だけでなく異文化も理解・尊重しながら、多様な人々と関わる協働性を身につける。
 4. 社会の出来事や課題に関心を持ち、大学で獲得した知識やスキルを活かしながら、必要な情報を収集・分析し、自ら課題を発見して解決策を提示することができる。

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④
とてもあてはまる	92	83	86	97
ある程度あてはまる	38	47	55	60
どちらでもない	20	26	19	22
あまりあてはまらない	29	23	17	5
全くあてはまらない	13	9	9	7
合計	192	188	186	191
平均	3.87	3.91	4.03	4.23
全体平均	3.87	3.91	4.03	4.23



- ① 2) 保育・幼児教育専攻
 1. 保育・幼児教育の考え方や理論を理解し、保育・幼児教育の現場に必要な専門的知識を身に付け、現場等で活用することができる。
- ② 2. 保育・幼児教育の様々な研究法や技法について、実践を通して理解できる。
- ③ 3. 他者との協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し、課題解決を行うことができる。
- ④ 4. 多様な他者を理解、尊重し、他者と共生する社会の形成に向けて、国内外の社会動向に関心を持ち、乳幼児理解の視点を生かしてアプローチすることができる。

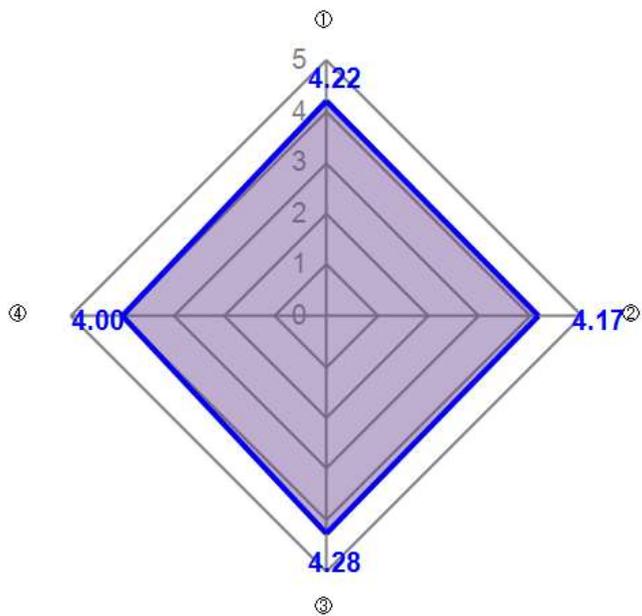
質問選択肢／質問番号	①	②	③	④
とてもあてはまる	95	68	75	63
ある程度あてはまる	60	49	63	57
どちらでもない	26	31	28	27
あまりあてはまらない	2	7	1	4
全くあてはまらない	1	3	0	3
合計	184	158	167	154
平均	4.34	4.09	4.27	4.12
全体平均	4.34	4.09	4.27	4.12



① 3) 児童教育専攻

1. 教育の基本、学校教育や学習指導のあり方を理解し、児童等の多様な教育的ニーズに応じた適切な配慮や指導を行うための知識等を身につけ、一人一人の児童等のよさや可能性を伸ばすことができる。
2. 指導に関する基本的な技能を身に付けると共に、児童等の実態を多面的に把握するために、様々な情報を効果的に活用するスキルを生かしながら、適切に児童等を指導することができる。
3. 教育者としての使命・責任を理解し、児童等の将来や社会のために、チーム学校の構成員として他者と協働し、課題の解決に取り組むことができる。
4. 多くの実習やボランティア活動等を通して得られた経験を統合し、地域や児童等の多様な実態に相応しい指導計画を創造し、持続可能な社会の担い手を育成することができる。

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④
とてもあてはまる	90	79	95	66
ある程度あてはまる	82	78	83	63
どちらでもない	33	40	26	46
あまりあてはまらない	1	1	2	7
全くあてはまらない	3	1	2	2
合計	209	199	208	184
平均	4.22	4.17	4.28	4.00
全体平均	4.22	4.17	4.28	4.00



① (専門科目)

人文学部心理臨床学科

1. 人間理解・共感・回復力：人を「生物-心理-社会」モデルの視点で理解し、その人がもつ個別性と多様性を尊重することができる。自己理解を深めながら、自己とは異なる他者の苦悩や立場をありのままに理解することができる。そして、他者との関わりを通じて自己の心や感情を受けとめ、しなやかな心を取り戻し、自己に活力を与えることができる。

②

課題

2. 分析・発信力：個人と社会の視点から、多様な手法を通して現象を調査・分析・考察し、発見されたとその解決方法を適切に発信することができる。

③

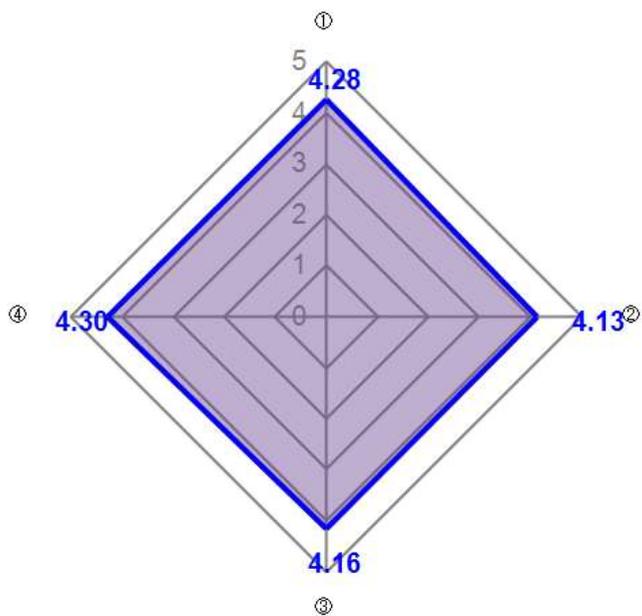
し、

3. 対応・判断力：他者との交流による学びや社会・世界動向を通して、現象を熟考・整理して課題を評価し、多様なアプローチを検討することができる。

④

4. 倫理観：自己及び他者の基本的人権を尊重し、他者の利益と幸福に貢献することができる。

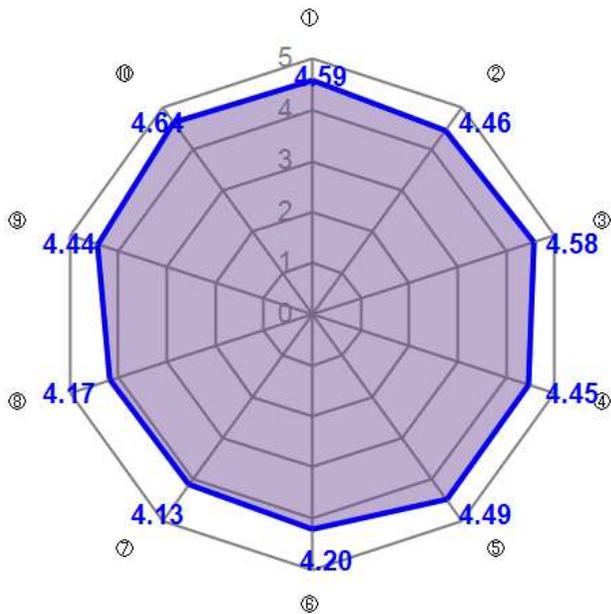
質問選択肢／質問番号	①	②	③	④
とてもあてはまる	107	70	75	83
ある程度あてはまる	105	88	84	82
どちらでもない	22	32	25	19
あまりあてはまらない	4	6	7	2
全くあてはまらない	3	0	2	1
合計	241	196	193	187
平均	4.28	4.13	4.16	4.30
全体平均	4.28	4.13	4.16	4.30



【1】 この科目について感じたことや思ったことをお答えください。以下の項目内容はあなた自身にどれくらいあてはまりますか。

- ① ①授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた
- ② ②事前学修・事後学修について十分に説明してくれた
- ③ ③授業は「講義概要（シラバス）」に沿って実施していた
- ④ ④理解がしやすいように教え方が工夫されていた
- ⑤ ⑤小テストやレポートなどの課題が出された
- ⑥ ⑥教員から課題などの提出物にフィードバックがあった
- ⑦ ⑦グループワークやディスカッションの機会があった
- ⑧ ⑧教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった
- ⑨ ⑨事前学修・事後学修の課題は授業に役立つものだった
- ⑩ ⑩全体として、この授業はあなた自身に役立つものでしたか

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
とてもあてはまる	1520	1361	1515	1356	1562	1224	1189	1111	1357	1634
ある程度あてはまる	765	820	769	820	574	661	700	816	794	651
どちらでもない	64	133	65	126	125	288	203	245	167	65
あまりあてはまらない	16	39	13	54	70	130	177	147	31	11
全くあてはまらない	9	21	12	18	43	71	105	55	25	13
合計	2374	2374	2374	2374	2374	2374	2374	2374	2374	2374
平均	4.59	4.46	4.58	4.45	4.49	4.20	4.13	4.17	4.44	4.64
全体平均	4.59	4.46	4.58	4.45	4.49	4.20	4.13	4.17	4.44	4.64



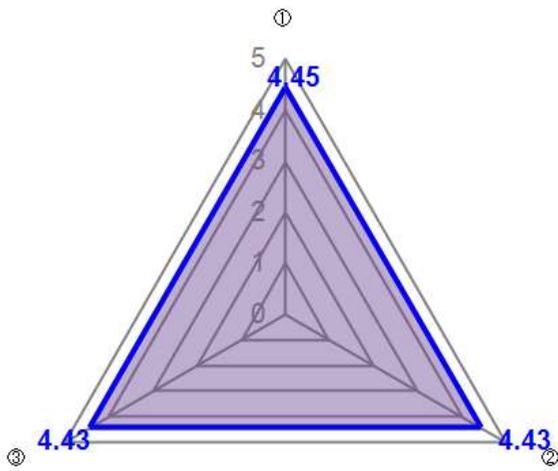
【2】ディプロマポリシーの実践について

学位授与の為には、ディプロマポリシーに記されている能力の実践到達が求められます。下記のディプロマポリシー（学位授与方針）を読み、以下の項目内容はあなた自身にどれくらいあてはまりますか。下記選択肢から1つ選んで答えてください。

また、授業が共通教育科目の場合は、以下の3つのディプロマポリシーを読み、回答してください。授業が専門科目の場合は、それぞれの学科・専攻・コースのディプロマポリシー（学位授与方針）を読み、回答してください。
授業により、該当するディプロマポリシーが異なりますので、それぞれの授業のディプロマポリシーについて回答してください。

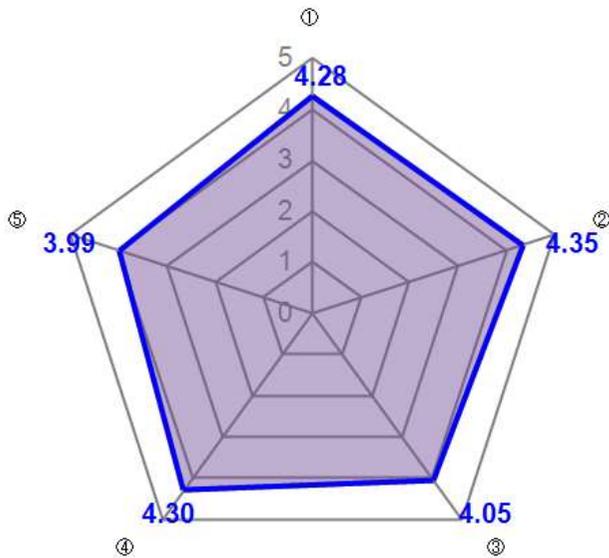
- ① （共通教育科目）
 1. 広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間力
 2. 教養と専門に関する知識も身につけ、社会のさまざまな分野で活動できる能力
 3. 社会の動向に関心を持ち、その変化やニーズに対応できる能力

質問選択肢／質問番号	①	②	③
とてもあてはまる	457	444	402
ある程度あてはまる	316	340	309
どちらでもない	49	37	45
あまりあてはまらない	10	14	10
全くあてはまらない	3	5	3
合計	835	840	769
平均	4.45	4.43	4.43
全体平均	4.45	4.43	4.43



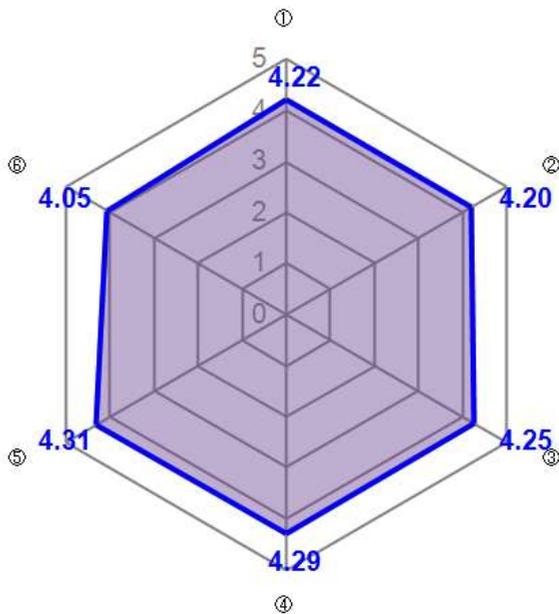
- ① (専門科目)
人文学部人文学科
1) キャリア・イングリッシュ専攻
1. 国際社会や実務で通用する英語運用能力(読む・書く・聞く・話す)を修得し活用できる
② 2. グローバルで幅広い視野と深い教養を身につけ、異文化社会の多様性を理解できる
③ 3. IT技術、情報リテラシーやビジネスに関する知識・倫理観、社会人としてのコミュニケーション力を身につけている
④ 4. 自己の意見や考えを積極的かつ適切に他者に対して発言・発信できる
⑤ 5. 卒業研究を通して、自ら課題を分析し、解決・結論に導く方策を構築できる

質問選択肢/質問番号	①	②	③	④	⑤
とてもあてはまる	142	150	92	121	54
ある程度あてはまる	66	77	91	75	44
どちらでもない	27	36	45	29	31
あまりあてはまらない	9	5	13	8	8
全くあてはまらない	9	3	3	2	3
合計	253	271	244	235	140
平均	4.28	4.35	4.05	4.30	3.99
全体平均	4.28	4.35	4.05	4.30	3.99



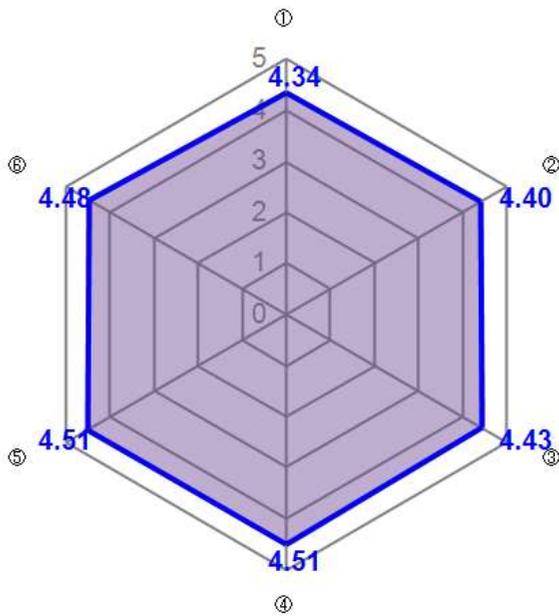
- ① 2) こども専攻 保育コース
1. 保育・幼児教育の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる
 - ② 2. 保育・幼児教育のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる
 - ③ 3. 保育・幼児教育の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる
 - ④ 4. 他者との協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる
 - ⑤ 5. 多様な他者を理解し、他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心を持ち、乳幼児理解の視点を活かしてアプローチすることができる
 - ⑥ 6. 保育・幼児教育に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥
とてもあてはまる	81	85	87	73	68	41
ある程度あてはまる	155	170	149	87	69	32
どちらでもない	20	22	17	17	19	28
あまりあてはまらない	1	4	3	2	0	4
全くあてはまらない	1	0	0	0	0	0
合計	258	281	256	179	156	105
平均	4.22	4.20	4.25	4.29	4.31	4.05
全体平均	4.22	4.20	4.25	4.29	4.31	4.05



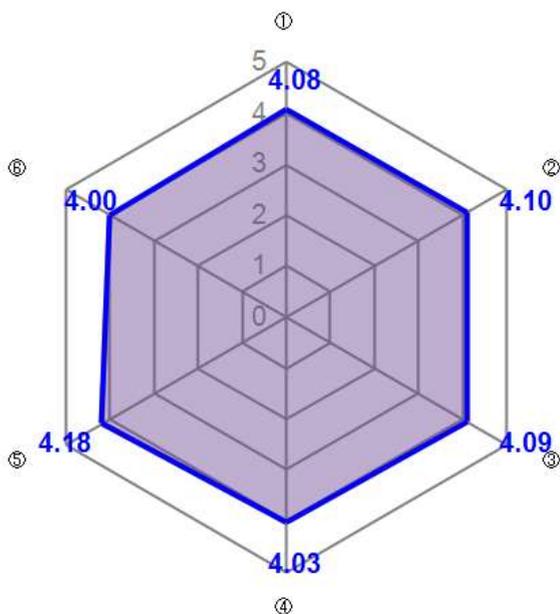
- ① 3) こども専攻 児童教育コース
1. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる
 - ② 2. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる
 - ③ 3. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる
 - ④ 4. 小学校等での実習やさまざまなボランティア活動における協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる
 - ⑤ 5. 多様な他者を理解し他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心を持ち教育者としての視点を活かしてアプローチすることができる
 - ⑥ 6. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥
とてもあてはまる	138	133	128	55	102	50
ある程度あてはまる	139	120	113	30	73	27
どちらでもない	21	17	12	6	8	7
あまりあてはまらない	5	3	3	1	0	1
全くあてはまらない	1	0	0	0	0	0
合計	304	273	256	92	183	85
平均	4.34	4.40	4.43	4.51	4.51	4.48
全体平均	4.34	4.40	4.43	4.51	4.51	4.48



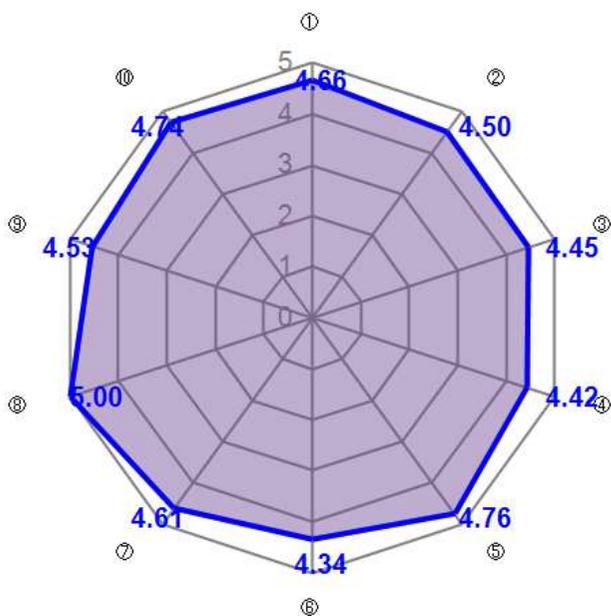
- ① (専門科目)
人文学部心理臨床学科
1. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる
 2. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる
 3. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる
 4. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる
 5. 多様な他者を理解し、他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心を持ち、心理学、特別支援教育、精神保健福祉の視点を活かしてアプローチすることができる
 6. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥
とてもあてはまる	151	117	166	77	120	57
ある程度あてはまる	325	193	283	133	208	81
どちらでもない	47	45	59	40	34	29
あまりあてはまらない	25	12	20	8	6	8
全くあてはまらない	4	4	6	4	3	4
合計	552	371	534	262	371	179
平均	4.08	4.10	4.09	4.03	4.18	4.00
全体平均	4.08	4.10	4.09	4.03	4.18	4.00



- ① 1. 授業は、シラバスに沿ったものであった。
- ② 2. 授業は、工夫されたものであった。
- ③ 3. 授業の課題の量は適切であった。
- ④ 4. 授業の難易度は適切であった。
- ⑤ 5. 授業は、専門性を高めるものであった。
- ⑥ 6. シラバスに示された到達目標が達成された。
- ⑦ 7. 授業によって、さらに学ぶ意欲を与えられた。
- ⑧ 8. 授業にはきちんと出席した。
- ⑨ 9. 授業のために事前学修に取り組んだ。
- ⑩ 10. 授業の事後学修にも取り組んだ。

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
5. はい	29	23	24	25	30	19	27	38	25	30
4. どちらかといえばはい	7	12	8	7	7	14	9	0	10	6
3. どちらともいえない	0	2	5	3	1	4	0	0	2	2
2. どちらかといえばいいえ	2	1	1	3	0	1	2	0	0	0
1. いいえ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38
平均	4.66	4.50	4.45	4.42	4.76	4.34	4.61	5.00	4.53	4.74
全体平均	4.66	4.50	4.45	4.42	4.76	4.34	4.61	5.00	4.53	4.74



① 「多過ぎた」と感じられた方は「はい」を、「少な過ぎた」と感じられた方は「いいえ」を選択してください。

質問選択肢／質問番号	①
5. はい	0
4. どちらかといえばはい	1
3. どちらともいえない	2
2. どちらかといえばいいえ	0
1. いいえ	0
合計	3
平均	3.33
全体平均	3.33

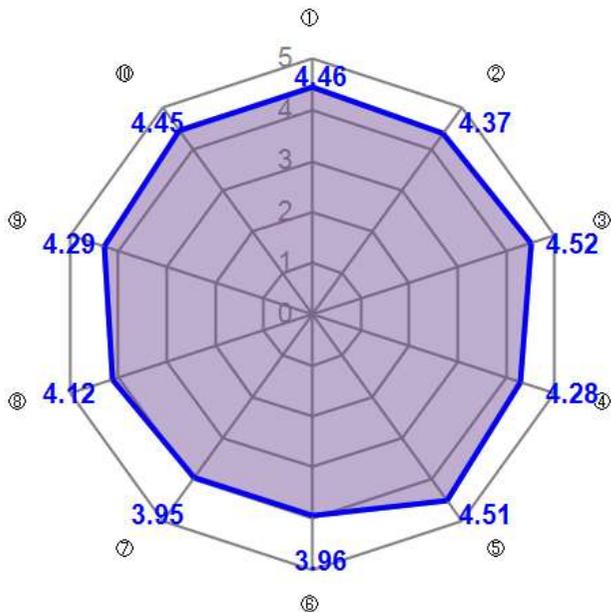
① 「難解であった」と感じられた方は「はい」、「やさし過ぎた」と感じられた方は「いいえ」を選択してください。

質問選択肢／質問番号	①
5. はい	2
4. どちらかといえばはい	1
3. どちらともいえない	1
2. どちらかといえばいいえ	0
1. いいえ	0
合計	4
平均	4.25
全体平均	4.25

【1】 この科目について感じたことや思ったことをお答えください。以下の項目内容はあなた自身にどれくらいあてはまりますか。

- ① ①授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた
- ② ②事前学修・事後学修について十分に説明してくれた
- ③ ③授業は「講義概要（シラバス）」に沿って実施していた
- ④ ④理解がしやすいように教え方が工夫されていた
- ⑤ ⑤小テストやレポートなどの課題が出された
- ⑥ ⑥教員から課題などの提出物にフィードバックがあった
- ⑦ ⑦グループワークやディスカッションの機会があった
- ⑧ ⑧教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった
- ⑨ ⑨事前学修・事後学修の課題は授業に役立つものだった
- ⑩ ⑩全体として、この授業はあなた自身に役立つものでしたか

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
とてもあてはまる	748	696	774	672	844	570	623	665	662	781
ある程度あてはまる	499	486	500	463	389	393	338	377	484	433
どちらでもない	49	102	41	117	51	187	140	131	119	72
あまりあてはまらない	28	37	12	62	29	110	138	100	45	35
全くあてはまらない	8	11	5	18	19	72	93	59	22	11
合計	1332	1332	1332	1332	1332	1332	1332	1332	1332	1332
平均	4.46	4.37	4.52	4.28	4.51	3.96	3.95	4.12	4.29	4.45
全体平均	4.46	4.37	4.52	4.28	4.51	3.96	3.95	4.12	4.29	4.45



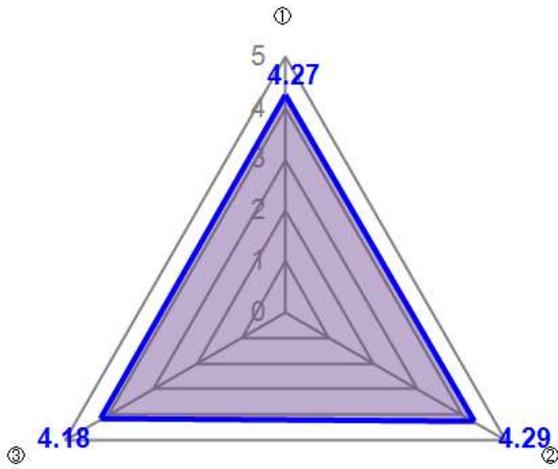
【2】ディプロマポリシーの実践について

学位授与の為には、ディプロマポリシーに記されている能力の実践到達が求められます。下記のディプロマポリシー（学位授与方針）を読み、以下の項目内容はあなた自身にどれくらいあてはまりますか。下記選択肢から1つ選んで答えてください。

また、授業が共通教育科目の場合は、以下の3つのディプロマポリシーを読み、回答してください。授業が専門科目の場合は、それぞれの学科・専攻・コースのディプロマポリシー（学位授与方針）を読み、回答してください。授業により、該当するディプロマポリシーが異なりますので、それぞれの授業のディプロマポリシーについて回答してください。

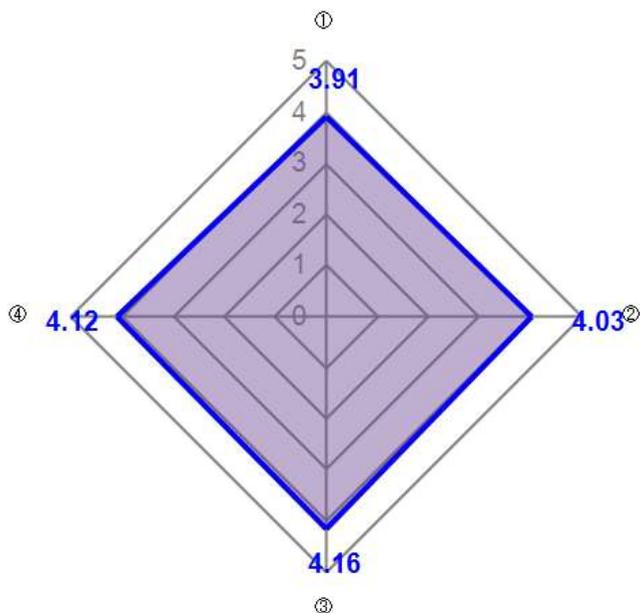
- ① （共通教育科目）
 1. グローバルな視野を持ち、多様な価値観を受け入れることができる力
 2. 社会のさまざまな分野で活動できる知識やスキルを身につける力
 3. 地域や社会の変化とニーズに対応できる力

質問選択肢／質問番号	①	②	③
とてもあてはまる	271	327	214
ある程度あてはまる	203	311	187
どちらでもない	61	63	64
あまりあてはまらない	23	22	22
全くあてはまらない	4	3	5
合計	562	726	492
平均	4.27	4.29	4.18
全体平均	4.27	4.29	4.18



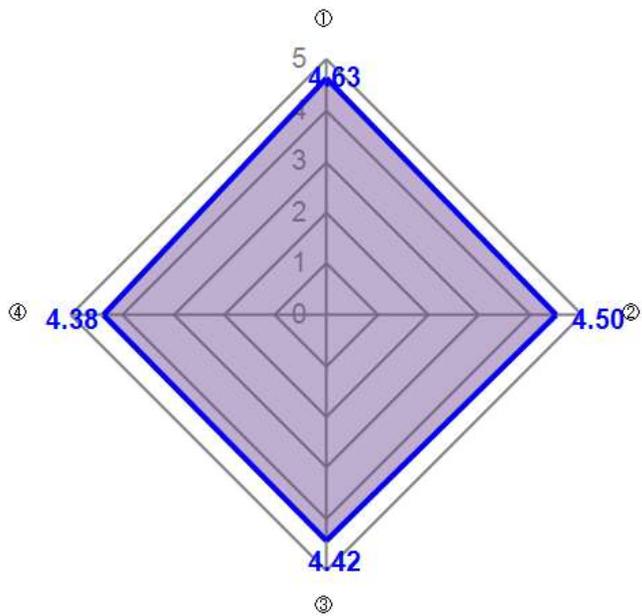
- ① (専門科目)
人文学部人文学科
1) キャリア・イングリッシュ専攻
1. 国際社会や実務で通用する英語の4技能・5領域を修得し、実践的で高度な英語コミュニケーション能力を身につける。
 2. 英語圏の社会・歴史・文化・言語・文学の各領域への理解を深め、国際的で学際的な視野を持つことができる。
 3. 社会の課題を自己に関わる問題として捉え、自国の文化だけでなく異文化も理解・尊重しながら、多様な人々と関わる協働性を身につける。
 4. 社会の出来事や課題に関心を持ち、大学で獲得した知識やスキルを活かしながら、必要な情報を収集・分析し、自ら課題を発見して解決策を提示することができる。

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④
とてもあてはまる	85	86	82	76
ある程度あてはまる	38	47	59	65
どちらでもない	16	17	14	17
あまりあてはまらない	21	21	16	16
全くあてはまらない	14	7	3	2
合計	174	178	174	176
平均	3.91	4.03	4.16	4.12
全体平均	3.91	4.03	4.16	4.12



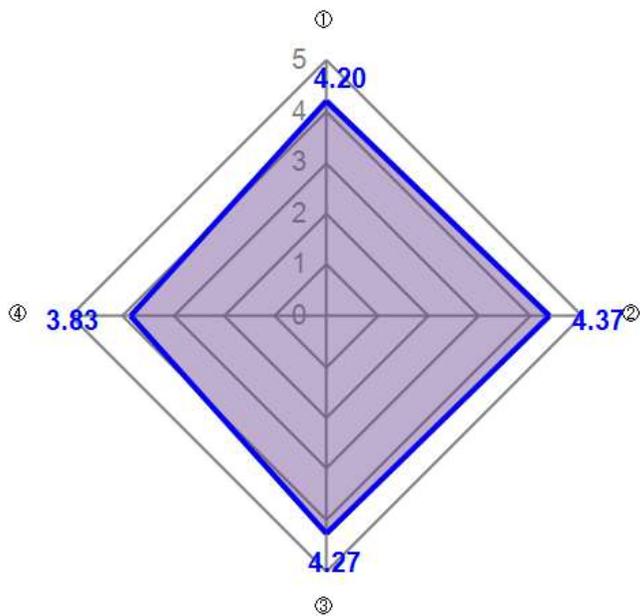
- ① 2) 保育・幼児教育専攻
 1. 保育・幼児教育の考え方や理論を理解し、保育・幼児教育の現場に必要な専門的知識を身に付け、現場等で活用することができる。
- ② 2. 保育・幼児教育の様々な研究法や技法について、実践を通して理解できる。
- ③ 3. 他者との協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し、課題解決を行うことができる。
- ④ 4. 多様な他者を理解、尊重し、他者と共生する社会の形成に向けて、国内外の社会動向に関心を持ち、乳幼児理解の視点を生かしてアプローチすることができる。

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④
とてもあてはまる	89	79	58	52
ある程度あてはまる	41	47	44	43
どちらでもない	3	4	2	6
あまりあてはまらない	1	1	5	2
全くあてはまらない	0	2	0	1
合計	134	133	109	104
平均	4.63	4.50	4.42	4.38
全体平均	4.63	4.50	4.42	4.38



- ① 3) 児童教育専攻
1. 教育の基本、学校教育や学習指導のあり方を理解し、児童等の多様な教育的ニーズに応じた適切な配慮や指導を行うための知識等を身につけ、一人一人の児童等のよさや可能性を伸ばすことができる。
 2. 指導に関する基本的な技能を身に付けると共に、児童等の実態を多面的に把握するために、様々な情報を効果的に活用するスキルを生かしながら、適切に児童等を指導することができる。
 3. 教育者としての使命・責任を理解し、児童等の将来や社会のために、チーム学校の構成員として他者と協働し、課題の解決に取り組むことができる。
 4. 多くの実習やボランティア活動等を通して得られた経験を統合し、地域や児童等の多様な実態に相応しい指導計画を創造し、持続可能な社会の担い手を育成することができる。

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④
とてもあてはまる	38	106	32	20
ある程度あてはまる	30	96	24	16
どちらでもない	9	15	8	19
あまりあてはまらない	2	3	0	1
全くあてはまらない	3	1	2	3
合計	82	221	66	59
平均	4.20	4.37	4.27	3.83
全体平均	4.20	4.37	4.27	3.83



① (専門科目)

人文学部心理臨床学科

1. 人間理解・共感・回復力：人を「生物-心理-社会」モデルの視点で理解し、その人がもつ個別性と多様性を尊重することができる。自己理解を深めながら、自己とは異なる他者の苦悩や立場をありのままに理解することができる。そして、他者との関わりを通じて自己の心や感情を受けとめ、しなやかな心を取り戻し、自己に活力を与えることができる。

② 課題

2. 分析・発信力：個人と社会の視点から、多様な手法を通して現象を調査・分析・考察し、発見されたとその解決方法を適切に発信することができる。

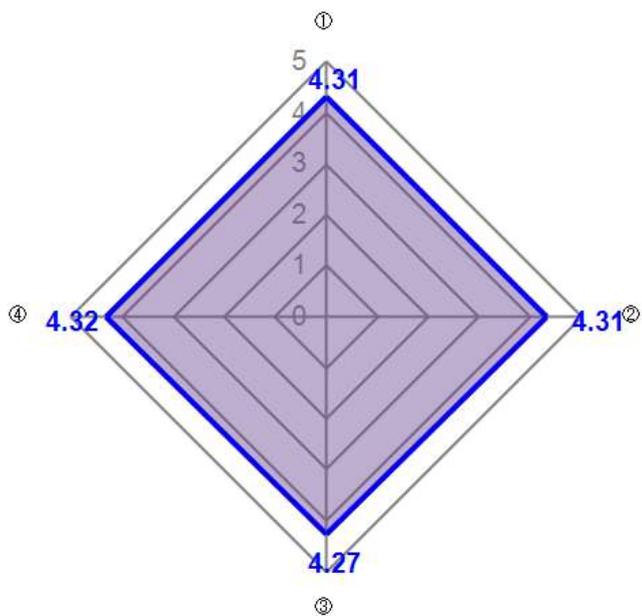
③ し、

3. 対応・判断力：他者との交流による学びや社会・世界動向を通して、現象を熟考・整理して課題を評価し、多様なアプローチを検討することができる。

④

4. 倫理観：自己及び他者の基本的人権を尊重し、他者の利益と幸福に貢献することができる。

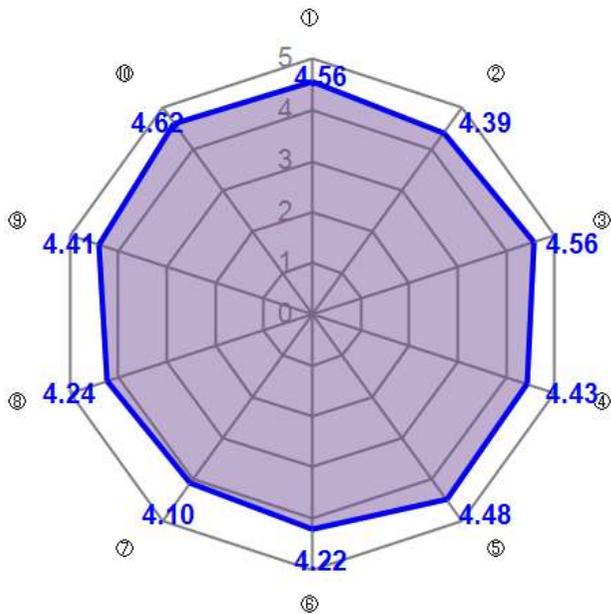
質問選択肢／質問番号	①	②	③	④
とてもあてはまる	92	80	85	91
ある程度あてはまる	90	68	81	82
どちらでもない	11	17	17	16
あまりあてはまらない	8	5	8	6
全くあてはまらない	1	0	0	0
合計	202	170	191	195
平均	4.31	4.31	4.27	4.32
全体平均	4.31	4.31	4.27	4.32



【1】 この科目について感じたことや思ったことをお答えください。以下の項目内容はあなた自身にどれくらいあてはまりますか。

- ① ①授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた
- ② ②事前学修・事後学修について十分に説明してくれた
- ③ ③授業は「講義概要（シラバス）」に沿って実施していた
- ④ ④理解がしやすいように教え方が工夫されていた
- ⑤ ⑤小テストやレポートなどの課題が出された
- ⑥ ⑥教員から課題などの提出物にフィードバックがあった
- ⑦ ⑦グループワークやディスカッションの機会があった
- ⑧ ⑧教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった
- ⑨ ⑨事前学修・事後学修の課題は授業に役立つものだった
- ⑩ ⑩全体として、この授業はあなた自身に役立つものでしたか

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
とてもあてはまる	965	815	944	859	965	814	763	742	836	1053
ある程度あてはまる	536	604	573	585	477	466	458	597	589	457
どちらでもない	57	117	46	82	77	166	167	126	111	42
あまりあてはまらない	11	29	8	34	33	81	118	77	23	17
全くあてはまらない	3	7	1	12	20	45	66	30	13	3
合計	1572	1572	1572	1572	1572	1572	1572	1572	1572	1572
平均	4.56	4.39	4.56	4.43	4.48	4.22	4.10	4.24	4.41	4.62
全体平均	4.56	4.39	4.56	4.43	4.48	4.22	4.10	4.24	4.41	4.62



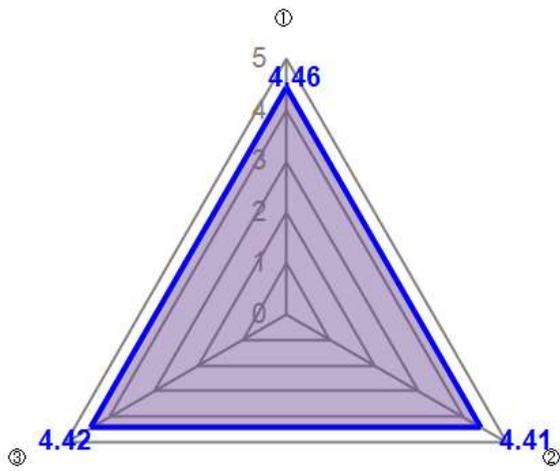
【2】ディプロマポリシーの実践について

学位授与の為には、ディプロマポリシーに記されている能力の実践到達が求められます。下記のディプロマポリシー（学位授与方針）を読み、以下の項目内容はあなた自身にどれくらいあてはまりますか。下記選択肢から1つ選んで答えてください。

また、授業が共通教育科目の場合は、以下の3つのディプロマポリシーを読み、回答してください。授業が専門科目の場合は、それぞれの学科・専攻・コースのディプロマポリシー（学位授与方針）を読み、回答してください。授業により、該当するディプロマポリシーが異なりますので、それぞれの授業のディプロマポリシーについて回答してください。

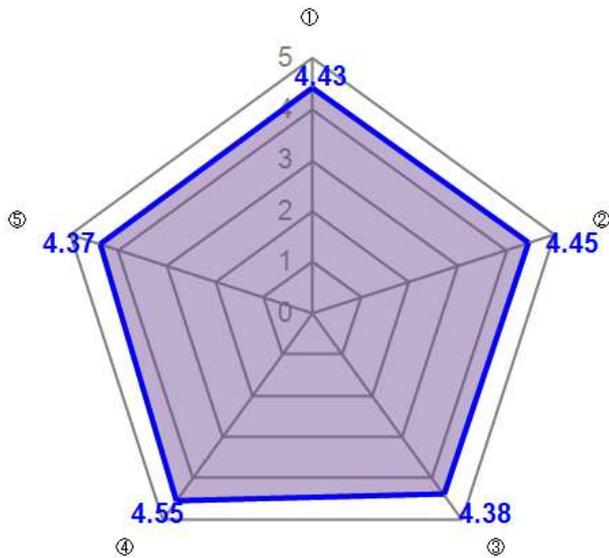
- ① （共通教育科目）
 1. 広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間力
 2. 教養と専門に関する知識も身につけ、社会のさまざまな分野で活動できる能力
 3. 社会の動向に関心を持ち、その変化やニーズに対応できる能力

質問選択肢／質問番号	①	②	③
とてもあてはまる	304	286	276
ある程度あてはまる	220	237	222
どちらでもない	29	37	32
あまりあてはまらない	3	3	2
全くあてはまらない	4	4	5
合計	560	567	537
平均	4.46	4.41	4.42
全体平均	4.46	4.41	4.42



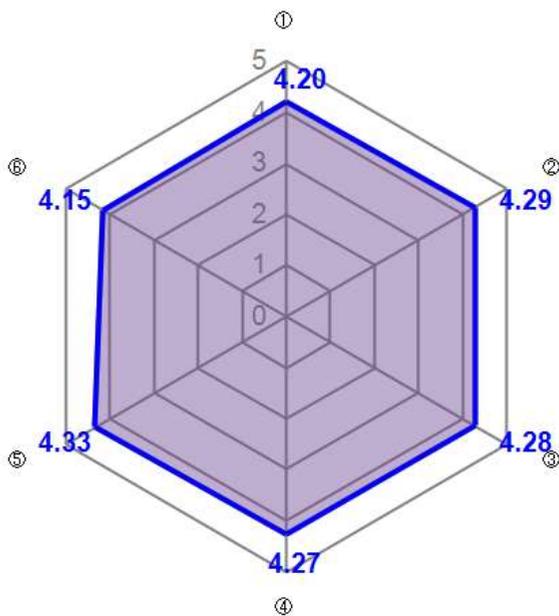
- ① (専門科目)
人文学部人文学科
1) キャリア・イングリッシュ専攻
1. 国際社会や実務で通用する英語運用能力（読む・書く・聞く・話す）を修得し活用できる
- ② 2. グローバルで幅広い視野と深い教養を身につけ、異文化社会の多様性を理解できる
- ③ 3. IT技術、情報リテラシーやビジネスに関する知識・倫理観、社会人としてのコミュニケーション力を身につけている
- ④ 4. 自己の意見や考えを積極的かつ適切に他者に対して発言・発信できる
- ⑤ 5. 卒業研究を通して、自ら課題を分析し、解決・結論に導く方策を構築できる

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤
とてもあてはまる	109	112	83	99	56
ある程度あてはまる	44	66	61	54	26
どちらでもない	15	16	17	7	13
あまりあてはまらない	5	1	2	0	2
全くあてはまらない	3	2	0	1	1
合計	176	197	163	161	98
平均	4.43	4.45	4.38	4.55	4.37
全体平均	4.43	4.45	4.38	4.55	4.37



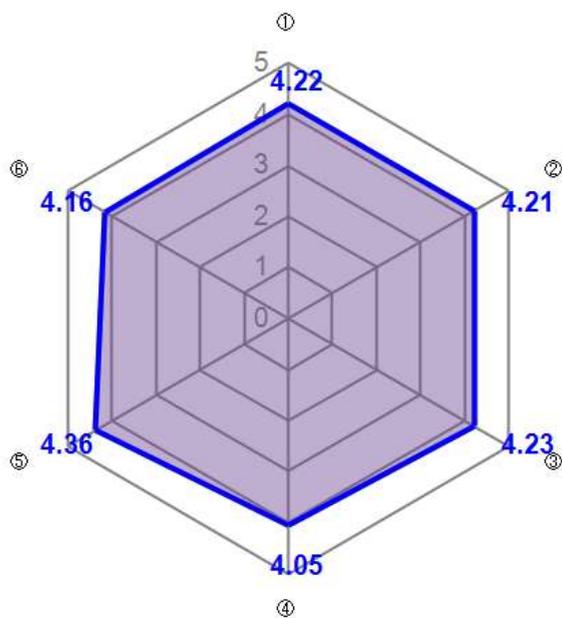
- ① 2) こども専攻 保育コース
1. 保育・幼児教育の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる
 - ② 2. 保育・幼児教育のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる
 - ③ 3. 保育・幼児教育の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる
 - ④ 4. 他者との協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる
 - ⑤ 5. 多様な他者を理解し、他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心を持ち、乳幼児理解の視点を活かしてアプローチすることができる
 - ⑥ 6. 保育・幼児教育に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥
とてもあてはまる	57	79	82	59	39	26
ある程度あてはまる	138	126	135	92	36	32
どちらでもない	12	8	12	12	11	13
あまりあてはまらない	2	4	3	1	0	1
全くあてはまらない	0	0	0	0	0	0
合計	209	217	232	164	86	72
平均	4.20	4.29	4.28	4.27	4.33	4.15
全体平均	4.20	4.29	4.28	4.27	4.33	4.15



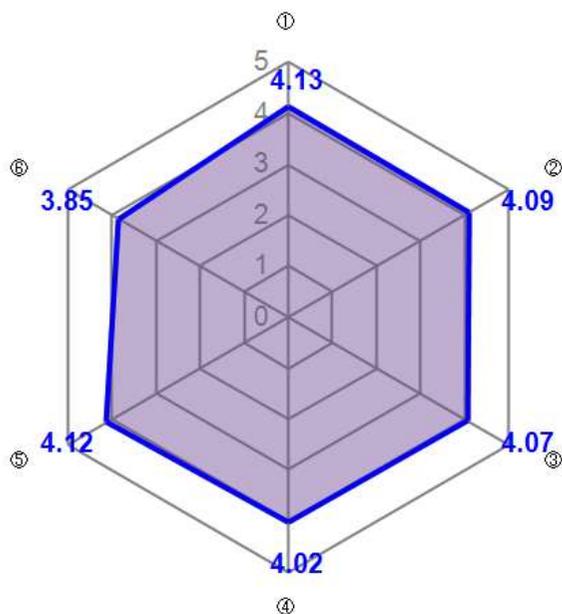
- ① 3) こども専攻 児童教育コース
1. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる
 - ② 2. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる
 - ③ 3. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる
 - ④ 4. 小学校等での実習やさまざまなボランティア活動における協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる
 - ⑤ 5. 多様な他者を理解し他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心を持ち教育者としての視点を活かしてアプローチすることができる
 - ⑥ 6. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥
とてもあてはまる	76	82	75	20	36	19
ある程度あてはまる	136	118	120	36	49	34
どちらでもない	21	21	11	5	4	7
あまりあてはまらない	2	4	7	3	0	1
全くあてはまらない	0	2	0	2	0	0
合計	235	227	213	66	89	61
平均	4.22	4.21	4.23	4.05	4.36	4.16
全体平均	4.22	4.21	4.23	4.05	4.36	4.16



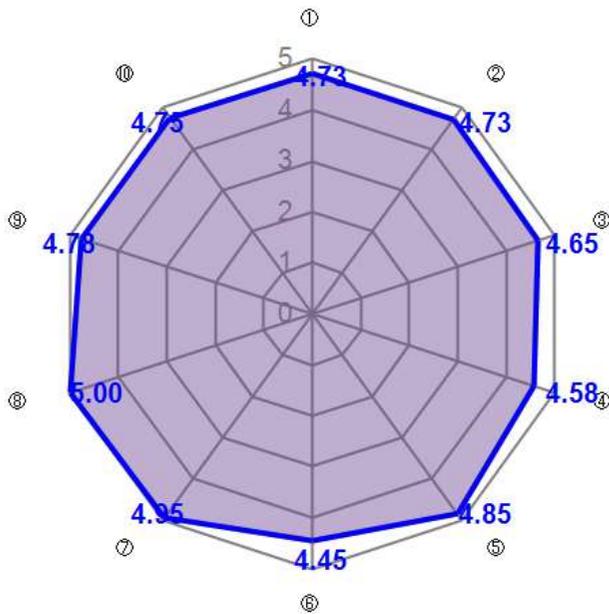
- ① (専門科目)
人文学部心理臨床学科
1. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる
- ② 2. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる
- ③ 3. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる
- ④ 4. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉の協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる
- ⑤ 5. 多様な他者を理解し、他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心を持ち、心理学、特別支援教育、精神保健福祉の視点を活かしてアプローチすることができる
- ⑥ 6. 心理学、特別支援教育、精神保健福祉に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる

質問選択肢/質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥
とてもあてはまる	96	60	75	35	52	13
ある程度あてはまる	227	132	156	82	108	37
どちらでもない	21	26	31	22	16	13
あまりあてはまらない	7	4	9	2	4	2
全くあてはまらない	5	2	2	2	2	2
合計	356	224	273	143	182	67
平均	4.13	4.09	4.07	4.02	4.12	3.85
全体平均	4.13	4.09	4.07	4.02	4.12	3.85



- ① 1. 授業は、シラバスに沿ったものであった。
- ② 2. 授業は、工夫されたものであった。
- ③ 3. 授業の課題の量は適切であった。
- ④ 4. 授業の難易度は適切であった。
- ⑤ 5. 授業は、専門性を高めるものであった。
- ⑥ 6. シラバスに示された到達目標が達成された。
- ⑦ 7. 授業によって、さらに学ぶ意欲を与えられた。
- ⑧ 8. 授業にはきちんと出席した。
- ⑨ 9. 授業のために事前学修に取り組んだ。
- ⑩ 10. 授業の事後学修にも取り組んだ。

質問選択肢／質問番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
5. はい	32	31	29	26	34	18	38	40	31	31
4. どちらかといえばはい	5	7	8	11	6	22	2	0	9	8
3. どちらともいえない	3	2	3	3	0	0	0	0	0	1
2. どちらかといえばいいえ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1. いいえ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
平均	4.73	4.73	4.65	4.58	4.85	4.45	4.95	5.00	4.78	4.75
全体平均	4.73	4.73	4.65	4.58	4.85	4.45	4.95	5.00	4.78	4.75



① 「多過ぎた」と感じられた方は「はい」を、「少な過ぎた」と感じられた方は「いいえ」を選択してください。

質問選択肢／質問番号	①
5. はい	1
4. どちらかといえばはい	0
3. どちらともいえない	0
2. どちらかといえばいいえ	0
1. いいえ	0
合計	1
平均	5.00
全体平均	5.00

① 「難解であった」と感じられた方は「はい」、「やさし過ぎた」と感じられた方は「いいえ」を選択してください。

質問選択肢／質問番号	①
5. はい	0
4. どちらかといえばはい	0
3. どちらともいえない	0
2. どちらかといえばいいえ	0
1. いいえ	0
合計	0
平均	0.00
全体平均	0.00

2. 入試関連データ

公表

2024年度入学者選抜結果

九州ルーテル学院大学 【2024. 4. 15】

* 出願数は、試験の結果第二志望の学科等に合格した場合、実際に合格（入学）した学科等にカウントしています。

	募集定員	総合型選抜			学校推薦型選抜									一般選抜									その他選抜			出願数	合格数	入学数				
		指定校・併設校			公募 (奨学金大学給付型併願者含む)			奨学金 大学給付型			帰国生及び 私費外国人 留学生			一般Ⅰ期			大学入学 共通テスト 利用			一般Ⅱ期			社会人									
		出願	合格	入学	出願	合格	入学	出願	合格	入学	出願	合格	入学	出願	合格	入学	出願	合格	入学	出願	合格	入学	出願	合格	入学				出願	合格	入学	
人文学科	キャリア・イングリッシュ専攻	35	0	0	0	10	10	10	4	4	4	0	0	0	0	0	0	24	24	13	32	23	1	1	1	0	0	0	0	71	62	28
	保育・幼児教育専攻	30	7	6	6	13	13	13	7	7	7	0	0	0	0	0	0	13	12	5	12	10	0	4	3	1	0	0	0	56	51	32
	児童教育専攻	35	16	7	7	7	7	7	17	11	11	0	0	0	0	0	0	68	39	17	39	24	0	19	7	1	0	0	0	166	95	43
	心理臨床学科	50	19	13	13	22	22	22	16	11	11	1	0	0	0	0	0	50	28	13	29	17	3	8	4	4	3	2	2	147	97	68
	合計	150	42	26	26	52	52	52	44	33	33	1	0	0	0	0	0	155	103	48	112	74	4	32	15	6	3	2	2	440	305	171

※欠席者数 一般Ⅰ期選抜 心理臨床学科：3名
一般Ⅱ期選抜 人文学科児童教育専攻：2名 心理臨床学科：1名

※その他の入学者選抜 編入学：キャリア・イングリッシュ専攻 出願2名、合格2名、入学1名 心理臨床学科 出願1名、合格1名、入学1名

3. 学生異動

2024年度末

(1) 在学生異動

入学年度	入学時数	2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度末	備考
2021年計	158	157	159	157	-	2022年度編入学3名
男子	33	33	34	32		(男1、女2)
女子	125	124	125	125		
在学率	100.0%	99.4%	100.6%	99.4%	0.0%	
2022年計	160		160	163	-	2023年度編入学4名
男子	23		23	25		(男2、女2)
女子	137		137	138		
在学率	100.0%		100.0%	101.9%	0.0%	
2023年計	187			184	-	
男子	45			45		
女子	142			139		
在学率	100.0%			98.4%	0.0%	
2024年計	160				-	
男子	36					
女子	124					
在学率	100.0%				0.0%	

※長期履修学生を除く。

※年度末学生数には3月31日付退学者は含む。

(2) 退学・除籍等

入学年度		2021年度内	2022年度内	2023年度内	2024年度内	計
2021年度	退学者数	-	1	2	-	3
	除籍者数	-	-	-	-	-
2022年度	退学者数		4	1	-	5
	除籍者数		-	-	-	-
2023年度	退学者数			4	-	4
	除籍者数			-	-	-
2024年度	退学者数				-	-
	除籍者数				-	-

※年度内退学者数には3月31日付け退学者を含む。

2021年度以降の入学者に関する退学・除籍等の人数及び主な理由は以下のとおりである
退学者11人、その主な理由

	2021年度内	2022年度内	2023年度内	2024年度内	計
一身上の都合					0
進路変更	2	6	6		14
経済的／家庭的理由					0
修学意欲低下			1		1
体調不良			1		1
計	2	6	8	0	16

除籍者-人

入学年度	2021年度内	2022年度内	2023年度内	2024年度内	計
●年度					0

※除籍理由:授業料滞納

4. 就職状況

(1) 内定率・進路決定率の推移

単位：％

	就職希望者全体の 内定率	卒業生全員の 進路決定率（卒業生数）
2021年3月卒業（21期生）	99.4	89.1（174名）
2022年3月卒業（22期生）	100.0	96.0（178名）
2023年3月卒業（23期生）	100.0	94.0（185名）
2024年3月卒業（24期生）	100.0	90.9（154名）

*長期履修生を除く

(2) 就職先業種別内訳（上位5位まで）

単位：％

2021年3月卒業(21期生)		2022年3月卒業(22期生)		2023年3月卒業(23期生)		2024年3月卒業(24期生)	
教育・学習支援業	46.4	教育・学習支援業	39.4	教育・学習支援業	41.8	教育・学習支援業	39.4
医療・福祉	21.6	医療・福祉	26.9	医療・福祉	27.2	医療・福祉	22.7
卸・小売業	10.5	卸・小売業	10.6	卸・小売業	9.5	卸・小売業	5.3
情報通信業	3.9	サービス業	5.0	情報通信業	3.2	サービス業	5.3
金融・保険業 サービス業	3.3	情報通信業	4.4	製造業	3.2	情報通信業 運輸業・郵便業	4.5

(3) 地域別就職状況

単位：％

2021年3月卒業(21期生)		2022年3月卒業(22期生)		2023年3月卒業(23期生)		2024年3月卒業(24期生)	
熊本	88.2	熊本	81.9	熊本	79.8	熊本	71.2
九州	4.6	九州	8.8	九州	12.0	九州	9.8
本州	7.2	本州	9.3	本州	8.2	本州	18.2

※その他 海外 0.8%